

幹総で死亡事故発生！

速報

NRU

国労せんだい

NO. 2469
2006年9月2日
発行責任者太田博二
編集責任者五十嵐敬

車両と扉に挟まれ

8月22日16時10分頃、新幹線総合車両センターで東北交通機械社員のOさん(31)が塗装した車両を仮台車に乗せ乾燥室へ移動中、仮台車が止まらず車両と乾燥室の扉に挟まれ死亡する

概況

本人は移動を開始した車両を一旦停止のラインで停止させるためスイッチを扱ったが何らかの原因で台車が止まらず、一

という事故が発生した。



事故現場隣の塗装室



なぜスイッチでの制御が不能になったのか・・・

背景には

E系が導入されるにあたり、車両の塗装作業は200系の2色から3色になり、乾燥時間が長くなる一方、全体の作業工程の短縮が行われ、最後の塗装作業にしわ寄せがきていた。そのため、早く乾燥させるため室内温度を下げないように扉を閉めたままで作業をさせられていた模様。安全と合理化(効率化)は同

止まない事故

居出来ないことを「死亡事故」という最悪の事象で証明することとなった。

この間、幹総では「待避誤り」など一歩間違えば生死にかかわる事故が発生していただけに(国労申で申し入れ中)系統が違うとはいえ今回の事故は残念の極みと言える。

また系統や事象を問わず異常と言えるほど事故が多発しているが、決して一過性のものではなく、「安全」を第一に考慮しない会社施策の帰結と言えないだろうか。

